

## キャンパス近くの神社

大学キャンパスから北東にすこし行くと「神明社」という神社がある。住宅に囲まれた小さな社であるが、大学の行き帰りによく立ち寄る。

石碑を写真に撮り、小さな文字をあとから拡大して読んだら、神社が大学キャンパスと関わりがあることがわかった。

石碑によると、この神社は寛文 7 年（1667 年）に名古屋南寺町養林寺住職専普上人が愛知郡高田村字藤塚（名市大構内に現存の円墳）に建立したことが起源である。明治 40 年 10 月、「県立第五中学校」「国立第八高等学校」が山の畑キャンパスの地に開校したことで現在地に遷宮、大正 12 年に社殿が造営されたという。

石碑の写真を拡大して神社の起源を知って、なんだか大きな「発見」をしたような気分だ。キャンパスの古墳と神明社が古くから関係があったとは意外であった。大学と地域の関わり、歴史的な結びつきをあらためて考えさせられた。

神社の大木も幹や枝が確か何年か前にぱっさり切られた。これも落ち葉「対策」などによるものであろうか。これを見ていると、大学キャンパスにおける例のイチヨウ並木「伐採」を思い出した。



（2008 年 5 月 5 日 記）